



「笹川杯作文コンクール 2012」～中国語で応募～ 第3回（8月分）優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

原子力はガラスのようなもの

天津市 石潔

福島放射能漏れ事故からかなり長い時間が経過したが、昨日のことに思い出しは、心穏やかでない人やこの件が話題にのぼると顔色を変える人は多い。実のところ、“原子力”は空のガラスのようなものであり、注がれたものが美酒であればいい酒であり、味わいを堪能できる。それが毒液であれば人の命を脅かす毒酒となり、恐怖に満ちたものとなるのだ。

2011年3月に福島原発事故が発生してからこれまでに、日本国民の生活はすでに正常に戻ったようである。しかし、放射能漏れの影響は引き続き存在している。その危害は今なおはっきりと現れており、今後も現れ続けるだろう。最近、日本政府は事故の被害者に対する賠償基準を制定した。被災地域を“居住制限区域”、“避難指示区域”、“帰宅困難区域”の3等級に細かく分けていることから、日本政府が事故の賠償業務に真剣で入念であることが窺える。よくある4人家庭を例として、賠償金額には一般に500万～670万円（人民元で約62万元～83万元）の幅がある。少なからぬ金額ではあるが、ひどく心に傷を受けた被害者にとって、身内と郷里を失った痛みはそうそう修復できるものではない。

本当に巨大な影響は、今の経済と資源の面だけではない。人々の示す“不安”が最も恐ろしいのだ。少し前に日本で行われたある調査では、80%の人が“脱原子力発電”であるべきと回答している。原子力発電所について、88%の人が“不安”と回答した。地震前に制定された「2030年に原子力発電所を14基増設する」計画について、「当初計画どおりにすべき」と回答した人は6%だけだった。この一連の調査データから、“原子力”が今度の事故で誘発した問題は十分に大きいということが分かる。

そこで、原子力発電所を“毒酒”とみなし、遠く離れ、断絶して、拒絶しようという人が出てきた。思うに、“原子力”に対する心配が少し誇張され過ぎなのではないだろうか。私達は“原子力”の二面性を見るべきなのである。確かに原子力には一定の危険が存在するが、原子力は避けるべきではなく、確かに巨大な価値を創造することができるという側面があることを否定できない。現段階では、エネルギー面のボトルネックが経済の発展を制約している。

したがって、私達は弁証法的に“原子力”の問題を評価し、原子力問題を正視すべきなのである。まず、私達は“原子力”の危険性と、もたらされる可能性がある巨大な危害について調べ、未然に防ぐ措置を万全にする必要がある。次に、科学技術レベルを高めて、より安全で効率の高い原子力発電所を建設し、原子力の応用をより広範で安全なものにすることである。そして、既存の他の資源とエネルギーの使用を節約して、再生できない資源が人類の最も貴重な財産であることを認識することである。加えて、より清潔で安全なエネルギーを探ること、完全に原子力を代替できるエネルギーの発見に努力することである。

これらのことは全て先進技術のサポートが必要であり、一国の力だけでは実現し難いものである。グローバル化の進んだ今日、国家間の協力により、私達はより安全で信頼できる原子力技術を追求するこ

とができる。中国と日本はアジアの非常に重要な国家で、両国の歴史は付き合いが長く、文化は源の非常に深いところで交わっている。日本の文化は中国の文化の影響を深く受けており、中国も近代化の過程で日本の影響を受けてきた。中日の国交が正常化してから40年になるが、中日両国の政治、経済、文化関係のいずれにおいても著しい発展が見られる。中国のごく普通の青年である私も、自分の生活に対する日本という国の影響を感じることができる。だから、期待できるのは、原子力を含む様々な課題に向き合って解決して、よりよいエネルギーの問題の解決につなげていくよう、中日両国は完全に協力することであり、またそれは可能なことである。

原子力は本当に美しい“グラス”である。もし、中日両国が率直に誠意を持って付き合い、協力して、原子力発電の安全問題を解決すれば、そこに注ぎ込まれるのは、甘く芳醇な“女兒紅”、すっきりした“清酒”となる。